

## 1 研究主題について

### (1) 研究主題

「社会的事象について考え、自らかかわる子」

### (2) 主題設定の理由

岐阜県小社研の研究主題は、「よりよい社会の実現をめざす子が育つ社会科学習」であり、社会に主体的に関わり、選択・判断したり行動したりすることができる児童の育成を目指している。本校の児童は、社会科の学習について意欲的に取り組める児童は多いが、身近な社会的事象について関心をもち、学んだ知識や身に付けた学力を、自分たちの生活や社会と関わらせたり、生かそうとしたりできる児童は多くない。そこで、研究主題を「社会的事象について考え、自らかかわる子」とし、研究を進めることとした。

### (3) 願う児童の姿

「社会的事象について考え、自らかかわる子」の研究を通して、学習を通して社会や自らの生活について考えたり、生かしたりできる力を育てたいと考えている。担当する5年生が目指したい姿は、『社会科の学習を通して身に付けた学力をもとに、身近な出来事や社会の出来事について関心をもち、社会的な見方・考え方をもとに自分なりの考えをもつ』であると考えている。

## 2 研究内容について

校内の研究構想をもとに、個人で具体的に研究内容を設定した。

### (1) 研究仮説

働かせたい社会的な見方・考え方を明確にした単元構成や単位時間の学習過程を改善し、児童が社会的事象に関心をもち、自己の考えを深めるための指導の手立てを工夫すれば、社会的な見方・考え方を働かせながら社会的事象について考え、自ら社会にかかわる子が育つ。

### (2) 研究内容

#### 【研究内容1】 単元の指導

(1) 働かせたい見方・考え方の明確化と継続指導 (2) 単位時間の役割の明確化と単元構成の工夫

学習内容で、学年を通した学びを見通したうえで、具体的にどのような見方・考え方を働かせたいかを明確にし、教材化したり、提示資料を工夫したりすることが大切になる。単元構成や、単位時間の位置付けも大切になると考えた。

#### 【研究内容2】 単位時間の指導

(1) 知的好奇心や見通しをもてる課題化 (2) 追究段階に応じた指導の手立ての工夫

「社会にかかわる」ためには、社会的事象に関心をもち、意欲的に追究したり理解したりすることが不可欠である。そのためには、資料を社会的な見方・考え方を生かして的確に読みとり、問題解決につなげる力も大切になる。単位時間の学習過程の手立てを工夫することで、そうした力をつけていきたいと考えた。

#### 【研究内容3】 自己の考えを深める指導

(1) 学習を振り返り、自己の考えをもつ場の設定と手立ての工夫

(2) 見方・考え方を働かせ自分の考えを広げたり深めたりする場の設定と手立ての工夫

「社会にかかわる」とは、社会について、考えをもったり自らの生活や考え方を振り返ったりすることだと考える。授業での仲間との学びを通して社会的事象について、考えたり表現したりする力を付けていく必要があると考えた。

### 3 実践 「寒い土地の暮らし」の実践を中心に

#### 1 [研究内容1] 単元の指導について

##### (1) 働かせたい見方・考え方の明確化と継続指導

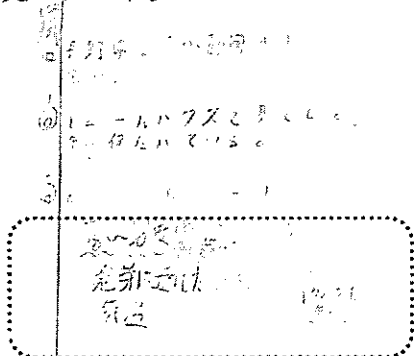
本単元は、『学習指導要領内容(1)イ 国土の地形や気候の概要、自然条件から見て特色ある地域の人々の生活』に準じている。ここでは、気候条件から見て特色ある地域の人々の暮らしについて北海道を通して理解し、自然条件と人々の暮らしや産業とのかかわりを考えたり理解したりすることをねらいとしている。自然条件と人々の暮らしや産業とのかかわりを考えたり理解したりするための社会的な見方・考え方を、下の4つの視点ととらえ指導した。

①「気候と農作物」 ②「先人の工夫」 ③「地域の歴史・伝統」 ④「現代的な課題と取り組み」

本単元までに、学習指導要領の内容(1)イに準ずる単元として「高い土地の暮らし」の単元において、この4つの視点をもとに教材を開発し、継続的に指導を行った。

学習課題 どうして6～9月のころに長野県では、たくさんレタスが生産されるのだろう。

##### 【A児のノート】



##### ①「気候と農作物」について

A児は、資料から事実の要点は読み取れている。しかし、それが課題の解決にどうつながるか、どう考えたらよいかかわからないという実態であった。ノートの部分の部分は、全体交流を通して明らかになった視点であり、教師がねらう見方・考え方である。このように、単位時間のなかで、働かせたい見方・考え方を明らかにし、単位時間をまとめる指導を行っていった。

A児は、「寒い土地の暮らし」の単元では、以下のように考えた。

学習課題 どうして“てんさい”は北海道でしか生産されないのだろう。

##### 【A児のノート】

①北海道は夏でも、20℃しかかかないから、北海道だからこぼれる。

②輪作を続けるく、せさや収穫量が変化している。

③北海道は雨が少ないからてんさいの条件とあった。

\*既習で北海道は、梅雨がなく年間の降水量が少ないことを学んでいる。

A児は「高い土地の暮らし」の単元で学習した「気候」の視点で、資料をもとに課題について考えている。A児は見方・考え方を働かせて、農作物の生産と気温や雨量が関係あるのではないかと考えをもつことができています。

##### (2) 単位時間の役割の明確化と単元構成の工夫

「寒い土地の暮らし」の実践では、学年を通した学びを見通したうえで、本単元を学ぶための土台となる既習の知識や考え方や、今後の学習へのつながりを明らかにし、単元構成や単位時間の位置付けを行った。

研究内容1(1)で明らかにした4つの視点は、学習内容として「農業」「観光(業)」「文化」の3つに分け、単元での児童の課題意識がつながりやすいようにした。

こうした課題意識の中で「北海道の人々の生活や産業には、どんな特色があるのか」を、単元を貫く課題として設定した。

本単元では、気候条件による特色ある地域の人々の暮らしや産業について考え、理解を深めるために、「その気候だからこそ」の視点を、単元を通して授業の中に位置づけるようにした。

単元の終末には、単元を貫く課題についてまとめる活動を位置付けた。そこでは、単位時間での自己の学びについても、改めて感じたことや調べたことをまとめることで、課題意識を整理し、社会にかかわり学び続ける意識が高められるようにした。(別紙資料3参照)

## [研究内容2] 単位時間の指導

### (1) 知的好奇心や見通しをもてる課題化

「社会にかかわる」ためには、社会的事象に関心をもち、意欲的に追究したり理解したりすることが不可欠である。そのために、単位時間の導入において、知っていることや理解していることとの矛盾や驚きにより「なぜ」「どうして」と感じさせることが大切だと考えた。

〈第3時 これまでの児童の認識と目指したい導入の意識〉

北海道は、広い土地があり輪作をうまく活用していることで、多くの種類の農作物を大量に生産している。国内生産量の割合が30～50%のものが多い。全国なので30%でも、ものすごい割合である。そうした中で、さとうの原料である甜菜は100%であり、北海道でしか作っていないことになる。どうして北海道では、甜菜を100%生産しているのだろう。

T 北海道では、たくさんの種類の農作物を、それぞれたくさん生産していました。

例えば… あずきは35% この35%って少ない？

C 少ないわけではない。だって日本全国だから、30%でも十分多い。

～省略（他の農作物を紹介）～

T じゃあ 甜菜はどれくらいだと思う？（グラフを見せて）…100%です

C ええ～!?

T 「ええ～」って言ったけれど、どうして？【驚きの内容を明らかにする】

C だって、100%ってことは、北海道だけってことだから、それが不思議。

T ○○さんが、北海道だけしか作っていないことが不思議って言ったけど、みんなはどう思う？【疑問の共有】 では、今日の課題をどうしよう。

C どうして甜菜は北海道だけでしか作られていないのか…

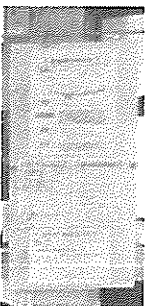


目を見開く子、思わず笑ってしまう子。写真にうつしだされる表情で、驚きをもち知的好奇心を感じている様子がうかがえる。当初は、「なぜ100%つくられるか」という他の農作物との違いから課題を設定し、個人追究や全体交流において、「その気候だからこそ」の考え方を共有するためのキーワードとして「北海道でしか」「北海道じゃないと」を引き出す展開を考えていた。そのため、課題の時点で「北海道でしか」という意識をもたせたため、やや学習展開において深まりに欠けてしまったと感じている。

しかし、児童は「他では作っていない」という100%の意味を理解した点では、目指したい導入の意識をもたせることができたと考える。

### (2) 追究段階に応じた指導の手立て

社会的事象に関わる学習課題について、資料をもとにして解決することができるように、「資料の見方や考え方」や「個人追究」の手順（別紙資料5,6参照）を教室に掲示し、継続的に指導した。また単位時間では、“到達段階に応じた指導の手立て”を設定し、読み取りの状況に応じた指導を工夫した。



## [研究内容3] 自己の考えを深める指導について

### (1) 学習を振り返り、自己の考えをもつ場の設定と手立ての工夫

「社会にかかわる」とは、社会の社会的事象について、考えをもったり自らの生活や考え方を振り返ったりすることだと考える。社会的事象について、考えたり表現したりする力をつけていく必要があると考え、そうした場を学習過程の終末に位置付けた。

終末の場において、課題解決を通して得た「まとめ」をもとに、自らの知識や経験などと関わらせて「感想」を書く時間を確保した。「感想」を書くことを通して、自己の考えの変容を感じたり、考えを深めたりすることや、より社会に関心をもち自己の生活などを見つめたりすることができるようになることを考えた。

そうしたねらいの達成をめざし、「感想」の視点（別紙資料7参照）をもって書くように指導した。

学習課題 どうして北海道では、多くの種類の農作物がたくさん生産されるのだろう。

### 【B児のノート（感想のみ）】

スーパーで北海道産の野菜などをたくさん見ているのでなぜ北海道産はたくさん売っているのかふしぎだ。たけと北海道ではない土地を生かしてたくさん野菜をつくっていることが分かった。

学習内容と自分の経験（スーパーで感じた疑問）を関連付けて考えている。

## 【C児のノート】

① 北海道は農業が中心に農作のよ  
さを重んじ、北海道からこ  
るからたくさん生産して  
わが北海道は、しゅかいし  
どが北海道からこるから  
ら今度は端浪市からこる  
る物を見つけた、と書いて

学習した考え方をもと  
に自分の地域のことに  
ついて調べたい、考えた  
いと感想を書いている。  
身近な生活への関心を  
深めているといえる。

これらの実践を継続  
的に行うことで社会  
的事象を身近に感じ  
たり、自分の生活に  
関わらせて考えたり  
する姿が増えてきた

### (2) 見方・考え方を働かせ、自分の考えを広げたり深めたりする場の設定と手立ての工夫

(1)の「感想」をもつためには、他の意見を受け入れたり、比較したりして、自分の考えを広げたり深めたりすることが大切だと考える。そのために、感想を交流し合う活動を位置付けた。仲間の感想を聞く際には、相手の意見に“反応すること”を大切にしたい。

その手立てとして、「社会にかかわるを目指して」(別紙資料8参照)の“聞き名人で学びを深めよう”にあるように、「同感・納得・気付き」の3つのパターンで反応し、自分の感想と比べながら相手の話を聞くよう指導した。さらに、反応した仲間から、意見を聞くことで考えの広がりや深まりをねらった。

学習課題 どうして甜菜は北海道でしか生産されていないのだろう。

C1 (北海道の寒い気候でしかつけれないから) これから、温暖化がひどくなると聞いたことがあるので、もし甜菜の(栽培)条件があわなくなったら、砂糖の量が減ってしまって食べられなくなるかもしれないのでさみしいです。

C2 (納得) てんさいがとれる気候でなくなったら砂糖が食べられなくなるかもしれないので…

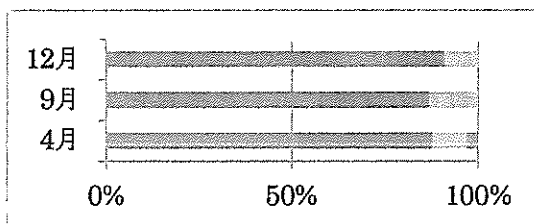
C3 私も納得で、砂糖がもしなくなったら、私もさみしいなと思いました。



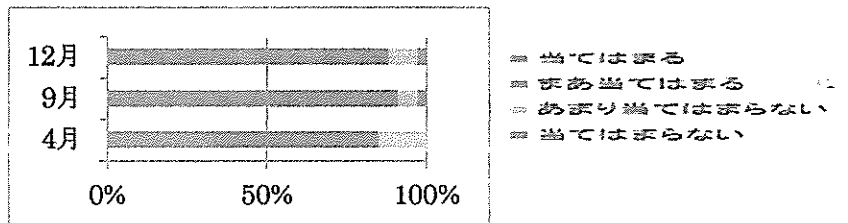
「感想」の内容や反応に課題はあるが、身近な生活や学習してきた視点を取り入れて考える力がついてきたといえる。“反応”も発言者の繰り返しになる児童が少なくないが、聞き比べて理解したり考えたりすることで、見方・考え方を学び、次に生かせるようになってきた。

## 4 成果と課題 (アンケートより)

### ① 社会の出来事への興味・関心



### ② 世の中の仕組みや人々の願いへの考えをもつ



継続的に指導をしたことで、児童の意識も高まり一定の成果はあったといえる。②について、高まった児童が多いことで、教師がより難易度を上げたり反応を求めてしまったりしたため、児童自身の自己評価が厳しくなったり、もともと苦手意識がある児童がより苦手に感じたりしたと考える。今後は、段階に応じた指導の手立てや、自己達成感を得られる学習過程の手立てを工夫していく必要があると考える。

## 5 今後の方向

「4 成果と課題」の課題の解決のためには、児童が、より学ぶ楽しさや達成感を得られるための手立てを工夫していく必要があると考えた。

そのためには、児童が見通しをもち主体的に学習する力をより高めることが大切だと考えた。その手立てとして、学習過程や考え方を整理した「社会科の学び方」を作成し児童に提示していきたいと考える。

さらに、それを教師と児童が共有することで、どの学年でも、専門外の教師でも、めざす児童を育てることにつながると考えた。